



◆ 取り組み企業インタビュー 第5回(全7回)

従業員は健康経営を経営的な視点で捉え、戦略的に実践していくのが健康経営です。少子高齢化による労働人口の減少や医療費の増加が懸念される中、企業の活性化や生産性の向上が期待できる取り組みとして注目されています。みえ健康経営キャンペーンでは県内で健康経営に取り組む中小企業や県の健康経営に関する施策などを7回にわたり紹介します。今回は津市で健康経営に取り組むクローバー総合保険事務所の田中社長にお話しを伺いました。

## 健康経営はスタートライン その先の「長期的な幸せ創り」を目指す



有限会社  
クローバー総合保険事務所(津市)  
代表取締役 田中 大補さん  
設立/1963(昭和38)年  
従業員/4人  
事業内容/損害保険代理店業務、  
生命保険代理店業務、  
FP業務(保険相談)



血圧測定を定期的に実施

「ストレスチェック」を  
「コロナ禍を受け業態を改める」

健康経営優良法人取得の半年前の2018年7月に、BCP(事業継続計画)と防災・減災への取り組みが評価され、内閣府が推進する「国土強靱化貢献団体」として最初のレシリエンス認証を受けた。身体を健康を健康経営で目指し、不安のない事業継続を達成すること心の健康を目指すという2つの軸を目指してのことだった。奇しくも両認定を受けて間もなく、新型コロナウイルス感染症が発生し全世界へ広まり、その影響は三重県へ広まり飲食業にも大きな打撃を与えた。

健康経営の取り組みとして特徴的なものとしては全社員が定期的に血圧測定を行い、数値を管理。測定結果は社内全員で共有し、基準値を超えた場合は赤丸を付け、血圧への意識を高めている。食事やストレッチなど健康に関する情報を毎週行う朝礼の前に交換し合い、数値の良化を目指している。

さらには年一回「クローバー健康通信」と題し、健康に関する情報を掲載した自社発行の印刷物を、社内のみならず顧客にも配布し、社外にも発信しているのも特徴だ。



自社で発行している「クローバー健康通信」

肉体の健康だけではなく、精神の健康への取り組みとして致知出版社の発行する「致知」を用い社内勉強会を開催し、人間の養成やこころの維持に注力している。そのほかにも全社員の定時帰社を推進し、勤務時間内の業務終了を徹底し残業を表現した。

### 取り組みのきっかけ

健康経営優良法人の取得の

きっかけは、初回に認定を受けていた株式会社佐野テック、佐野明郎前社長の「保険代理店という健康を扱う企業という性質上、まず自社の社員の健康に向けて実践すべきだ」という勧めにより取り組みをスタートさせ、2019年2月に健康経営優良法人中小企業部門認定を受けた。

健康経営という言葉が世に広まる以前から、県が行う「ワーク・ライフ・バランス推進サポート事業」の8社に選ばれ、企業体質の改善に向けて動き出すなど、働く環境を改善

る取り組みを以前より行ってきたため、健康経営に合わせた制度改革に対しての抵抗や苦勞といったものは特別感じることではなかった。田中社長は「健康経営優良法人の認定については『長期的な幸せ創り』(Well-being)の一環であり、心身ともに健康であることは実現の必須条件。しかし目標として必死に取り組むのではなく、日常の中で少しずつ積み上げて恒常的なものとしていく」と語る。

その被害は顧客にも広がっており、この状況下で保険代理業という仕事ができることは何かと考え、コロナ禍で関心が高まっていた「事業継続力強化計画」の策定支援の防災関連のセミナー講師として自身のノウハウを県内企業に伝えた。

コロナに加え自然災害の甚大化が叫ばれる昨今、中小企業の経営者と触れ合う中で補償のスピード感が重要であると感じ、保険業と関係する地元の建設業者や自動車整備会社など連携し、速やかに復旧に着手できる体制を構築し地域で一体化する仕組みを作った。

保険代理業として方が一の際に保険金を納品するだけでなく「幸せ回復支援」と業態を変え、より災害やアクシデントから幸せな状態に回復する支援に日々取り組んでいる。田中社長は「健康経営はゴールではなくスタート、取り組みを外にも広げていき、お客様が健康であれば社員も健康になっていくという好循環を目指す。次のステップへ踏み出していく新たなルールモデルとしてこれからも取り組みを進めていきたい」と語った。

今回は2月11日以内に掲載します。

私たちは「みえ健康経営推進キャンペーン2020」を応援します。(五十音順)
